

# 万吉だより

MA

GECHI

NEWS

第 17 号 平成 25(2013) 年 9 月

## 立正大学博物館の運営

館長 池上 悟

立正大学熊谷校地に所在する立正大学博物館は平成 14 年に開館して、本年は 12 年目を迎えました。この間に大学博物館として、資料展示・資料保管・博物館館務実習などに力を注ぎつつ運営してきました。

第 27 代学長をつとめられ博物館開館に尽力された名誉教授の坂誥秀一博士は、定年を迎えられた古稀まで初代博物館長をつとめられました。喜寿を迎えられた昨年には長年の立正大学における教育研究の実績が顕彰されて瑞宝中綬章を受章されました。まことに御目出度い限りであります。

立正大学博物館の開館も、坂誥秀一博士の半世紀に及ぶ立正大学生活を彩る重要な事柄であり、開館の意思を尊重して博物館運営を継続しなければならないと改めて感じられるところです。

この間、博物館専門職は初代が博物館学芸員課程の教員が兼務し、次いで嘱託職員に代わり、この 4 月からは 3 人目の学芸員が勤務しています。これに加えて嘱託事務職員が運営を補助しており、日常業務を遂行しています。

決して十分とはいええない陣容ではありますが、立正大学考古学研究室の長年の調査により蒐集された窯業関係資料、ネパール・ティラウラコット出土資料、本学名誉教授であった久保常晴博士の蒐集された考古資料、縄文時代研究者として著名であった吉田格氏の寄贈資料、梵鐘の研究者である真鍋孝志氏の寄贈資料などの貴重な資料を活用して運営しているところです。

直接に熊谷校地に関連する博物館企画展としては、全面遺跡として周知されている熊谷校地にあって諸施設建設に伴う事前調査として発掘調査してきた熊谷校地内遺跡展、熊谷校地開設に当たって昭和 40 年に発掘調査された隣接する野原古墳群展、熊谷の地を故郷とする中世に展開した板碑展なども企画してきたところであり、所蔵資料を中心として特徴的な企画を実践してきたところです。

熊谷校地は開設 40 年を経過して施設を一新し所属学生も変遷するなど、開館当時とは環境も違ってきてはいるものの、熊谷に在る教育施設として地域連携を進めながら活動を推進していきたいと考えております。

## 大 学 博 物 館 に 思 う こ と

博物館運営委員 山口 忠利



立正大学博物館は、大学創立 130 周年を記念して大学設置博物館として開設された。平成 14 年のことである。今年は丸 10 年目の節目の年に当たる。私の浅学の知識

をもって大学博物館を語ることは、荷が重すぎますが、ある老教師の独り言とお考えいただければ、幸甚でございます。大学博物館の役割であります、通例、①学術資料の保管・分類、②学術資料や標本に根ざした研究・教育（博物館学など）、③学術資料・標本の展示公開、研究成果の公開展示・講演会・セミナーの開催そして博物館ボランティアの指導・教育など、が挙げられると思います。この役割から浮かび上がるのは、博物館が期待される役割を果たすには大学院、研究所、学部との密接な連携を欠くことが出来ないということだろうと思います。我が立正大学博物館は、期待される役割を果たしているのでしょうか。毎年博物館年報が発行されています。その内容は博物館の施設概要、展示・公開事業、博物館学の実習内容そして来場者数などになっています。これは博物館の活動を知る重要なデータであります。年報の序にある館長の言にある「年 2 回の特別展と企画展」が開催できない悔しさを慮るにつけ、立正大学博物館の将来を憂えるものであります。熊谷校地に設置している博物館は発掘による考古学資料、本学名誉教授寄贈による蒐集資料など学術的に貴重な資料が保管展示されている。しかし熊谷に設置ということが原因であるか否かは定かではないが、保管分類された資料や標本による研究成果の発表やセミナーの開催など世に問う活動が不活発ではないのかと思うことがあります。調べてみますと、大学設置博物館は、それぞれの大学や

大学院、研究所、学部の特色を出したものになっています。同一大学で複数の博物館を設置するところも数多くあります。私見ではありますが、大学設置博物館は、学術資料の蒐集と展示が最重要とは思えません。勿論これも必要ですが、「この方面の第 1 級の研究成果を求めるには、この大学博物館を措いてない」と言われたいものです。立正大学博物館は、財政難、人手不足に悩んでいます。設置した当時の目的と役割を再確認し、大学設置博物館として本来の役割を果たされんことを強く期待するものであります。

(社会福祉学部社会福祉学科教授)

## NEWS ① - 入館者数 -

平成 24 年度は、平成 24 年 4 月 2 日（月）から平成 25 年 3 月 28 日（木）までの延 193 日、開館しました。総来館者数は 1,278 名でした。内訳は一般の方 265 名、大学生 182 名、教職員 37 名、高校生以下の方 129 名、オープンキャンパス（延 5 日）で来館された方 665 名でした。

今年度は、7 月 31 日現在で、延 81 日開館し、総来館者数は 504 名です。内訳は、一般の方 165 名、大学生 183 名、教職員 52 名、高校生以下の方 60 名です。さらに、6 月 9 日（日）に熊谷キャンパスにおいてオープンキャンパスが行なわれ、その際の来館者数は 46 名でした。また、団体では、以下の皆様がご来館されました。

- ・ 6 月 5 日 日本ベル協会 (9 名)
- ・ 6 月 12 日 埼玉県立妻沼高等学校 PTA (12 名)
- ・ 6 月 14 日 埼玉県立鴻巣女子高等学校 PTA (15 名)
- ・ 6 月 17 日 東京成徳大学深谷高等学校 2 年生 (33 名)
- ・ 6 月 21 日 埼玉県立宮代高等学校 PTA (16 名)
- ・ 7 月 5 日 埼玉県立誠和福祉高等学校 PTA (23 名)
- ・ 7 月 22 日 茨城県立岩井高等学校 1・2 年生 (25 名)

## よりよい「顔」とするために

博物館運営委員 野沢 佳美



衆知のごとく大学博物館 (University Museum) は、大学図書館とともに大学の「顔」といってもよい施設です。立正大学博物館は平成 14 (2002) 年 4 月に開館し、開館 2 年目に博物館相当施設として認められました。本館のこれまでの企画・運営や意義などは、既刊の本誌冒頭の坂詰・池上両館長の一文に詳細に綴られております。

私は開館と同時に「文化史関係学識経験者」として本館運営委員の末席に連なり、こんにちにいたっております。毎年おこなわれる「運営委員会」には可能な限り出席し、本館の現状報告や課題を見聞きしてまいりました。限られた施設設備や予算のなかで、館長をはじめ関係各位の努力によって、貴重な所蔵品の展示、資料集の公刊、「館務実習」の実施など、この 10 年の間に充実した運営がなされてきました。

ただ、これまでの本館の状況を鑑み、至急改善して欲しい点があります。その一つは、年間予算であります。決して潤沢な予算とはいえず、そのため収蔵品の保存修理や、新たな標本の購入等が思うに任せないといった現状にあります。この点はしばしば「運営委員会」の席上でも、各委員から懸念や継続した増額要求の意見が出されております。

いま一つは、熊谷校舎の本館は、大崎校舎の教職員をはじめ学生たちにとって、ちょっと「遠い存在」となっていることです。企画展等のパネル展示が大崎校舎の廊下の壁を利用しておこなわれていますが、やはり専用のスペース、すなわち「大崎分館」のような施設を常設して欲しいものです。全学的に「学修の基礎 I」において、本学の歴史や建学の精神等を新入生に学ばせておりますが、

本学関連の所蔵品を中心とした展示室の常設が可能となれば、新入生にとっても大いなる知的好奇心を喚起するものとなりましょう。

むつかしいこととは思いますが、本館関係者の日ごろの努力を拝聞するにつけ、敬意を払わずにはおられない分、より充実した本館の運営を願いたいと思い、一文を草しました。図書館ともども本館をよりよい「顔」とするために、大学当局に対し丁寧な説明と必要性を訴えつづけていただきたい。

貴重で有用な所蔵品が有効かつ十分に活用されていないのは、実にもったいないことです。

(文学部史学科教授)

## NEWS ②

## 出版物

平成 24 年度は、以下の出版物を刊行しました。

- ・『立正大学博物館年報』第 10 号

## 資料活用

平成 24 年度は、当館所蔵の資料を以下の機関に貸出をおこないました。

## 1. 本町田遺跡・写真 3 点

貸出機関：株式会社プラスミック GFP

貸出期間：平成 24 年 6 月 18 日 (月)

～平成 24 年 6 月 29 日 (金)

利用目的：J:COM チャンネル「まちの記憶」

(TV 番組) # 18 町田市編にて使用。

## 2. 本館外観及び第 2 展示室展示状況写真 計 2 点

貸出機関：西南学院大学

貸出期間：平成 24 年 9 月 29 日 (土)

～平成 24 年 10 月 6 日 (土)

利用目的：西南学院大学発行『博物館 NEWS』

Volume12(大学博物館紹介⑩立正大学博物館)での掲載。

収蔵資料紹介

吉田格コレクション

称名寺貝塚出土のイルカ・クジラ類遺存体

はじめに

吉田格氏は本学同窓で、縄文時代研究において大きな業績を残された考古学研究者です。その吉田氏によって調査された縄文時代の遺跡出土資料

の一部が、本館 2 階展示室に展示されております。人工遺物が多く並ぶなか、展示室中央に動物の骨や貝殻（動物遺存体）が並んでいます。そのうち、称名寺貝塚から出土したイルカ・クジラ類遺存体について紹介します。

1. 貝塚の立地と形状（第 1 図）

称名寺貝塚は、神奈川県横浜市金沢区金沢町と寺前町に散在する 5 カ所の小貝塚によって構成されています。ここで紹介するイルカ・クジラ類の遺存体は、そのうちの A 貝塚と B 貝塚より出土したものです。A 貝塚は横浜市金沢区金沢町 206 番地、B 貝塚は同区寺前町 133 番地で、ともに海岸に近いところに立地しています。これら 2 カ所の小貝塚は縄文時代後期初頭（約 4000 年前）に形成されたものと考えられています。

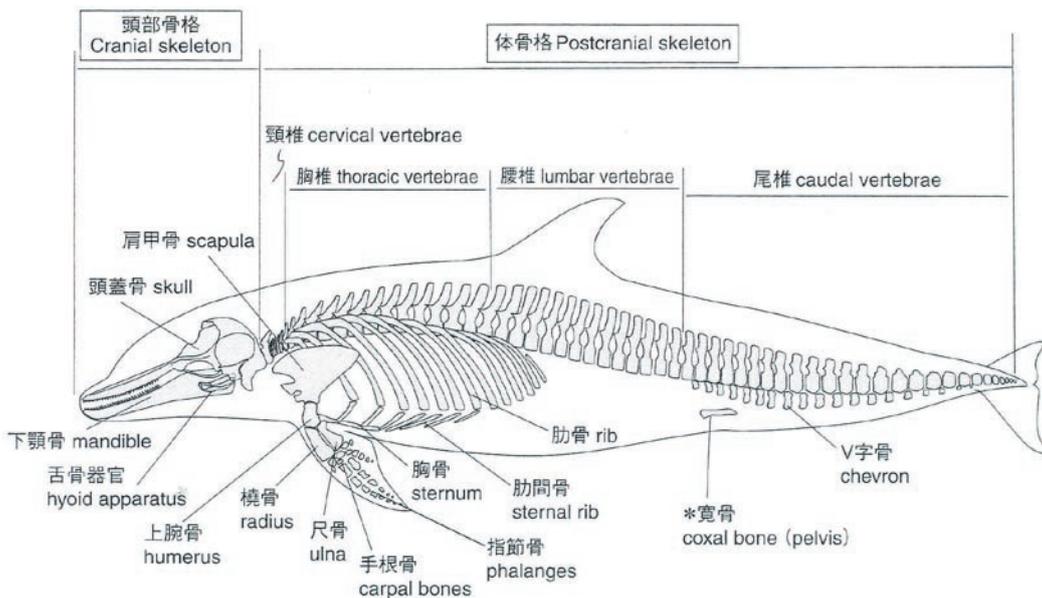
2. A 貝塚および B 貝塚出土の脊椎動物遺存体

これらの小貝塚より出土した脊椎動物遺存体は以下の通り報告されています。なお、これらは、故・直良信夫博士（元・早稲田大学教授）によって鑑定されました。

A 貝塚からは、魚類が 5 種類（マダイ、クロダイ、アカエイ、マグロ類、スズキ）、鳥類が 2 種類（カラス類、キジ類）、哺乳類が 8 種類（イノシシ、ニホンジカ、テン？、タヌキ、マイルカ類、



第 1 図 称名寺貝塚 A・B 貝塚の位置



第 2 図 イルカ類全身骨格図

クジラ類の一種、カマイルカ、シャチ)とされています。

B貝塚からは、魚類が3種類(マダイ、マグロ類、フグ類)、鳥類が1種類(カモメ類)、哺乳類が7種類(イノシシ、ニホンジカ、イヌ、ニホンザル、マイルカ類、カマイルカ?、クジラ類の一種)とされています。

## 2. 陳列されているイルカ・クジラ類遺存体

第2展示室に陳列されているイルカ・クジラ類は、全てマイルカ科です。具体的にマイルカ、バンドウイルカ、カマイルカ、ゴンドウクジラ類です。以下に、種類別に紹介します。

なお、イルカ類の頭蓋骨の図において、黒く表現している部分が実際に遺存している部分になります。また、これらの図は、バンドウイルカのを基準として作成しています。

### ①カマイルカ (第3図)

カマイルカは1点展示されています。部位は頭蓋骨で、腹側全体、背側も上顎、後頭部分が欠損しており、前頭部分のみが遺存しています。大きさは、遺存長が16cm、遺存幅が16cmです。本種の成体の体長は、170～240cmとされています。また、江戸時代には、伊豆などにおいて、追い込みや突きん棒漁業で食用や採油用に捕獲されていました。

### ②マイルカ (第4図・第5図)

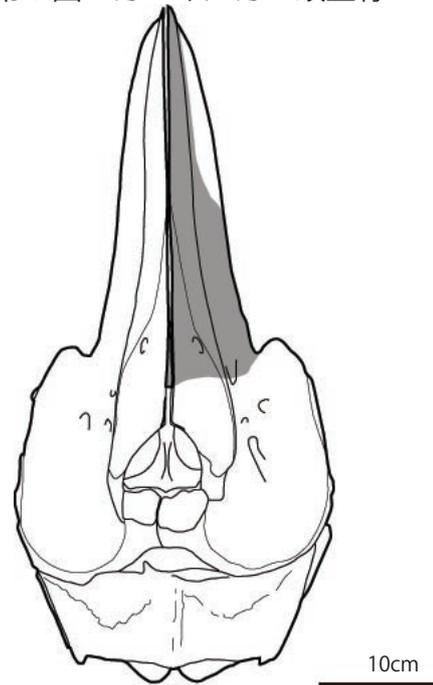
マイルカは2点展示されています。ともに上顎骨部分で、第4図のものは右側のみ、第5図のものは左右ともに遺存しています。大きさは、遺存長で第4図のものが33cm、第5図のものが35cmです。本種の成体の体長は170～190cmとされています。また、比較的沖合いに生息しています。

### ③バンドウイルカ (第6図～第8図)

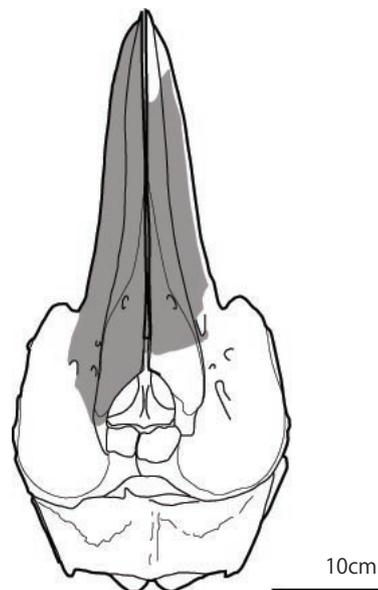
バンドウイルカは2点の上顎骨と6点の椎骨が展示されています。上顎骨は、第6図のものが左側、第7図のものが右側が遺存しております。大きさは、遺存長で第6図のものが20.5cm、第



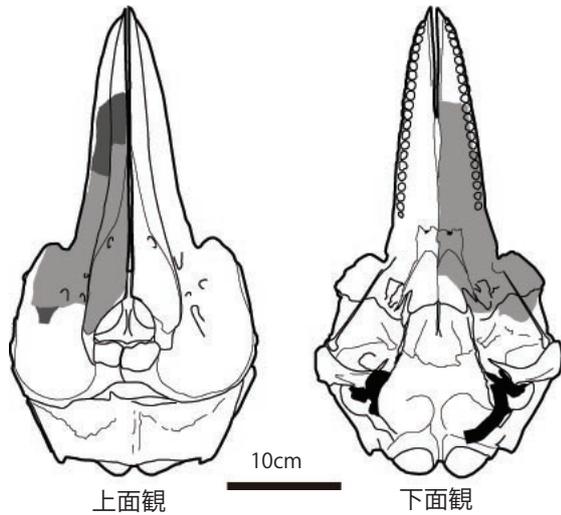
第3図 カマイルカ・頭蓋骨



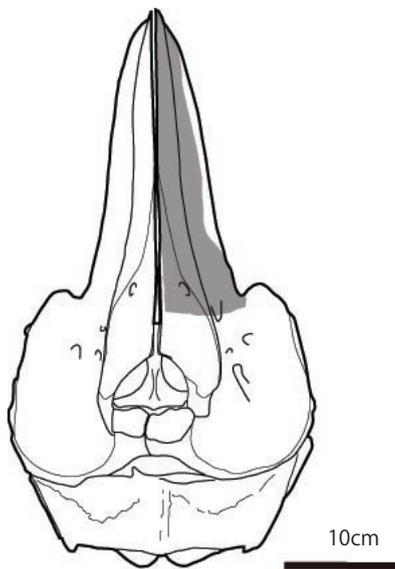
第4図 マイルカ・上顎骨①



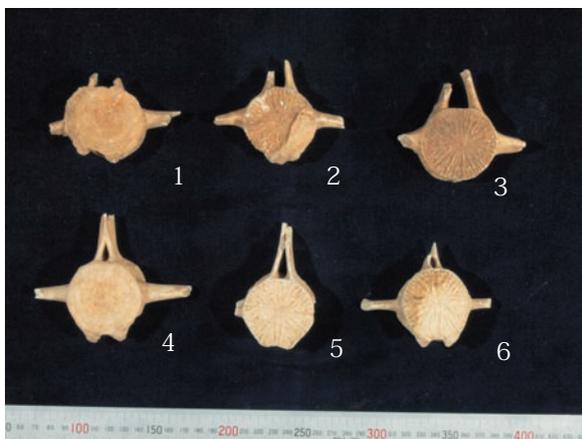
第5図 マイルカ・上顎骨②



第 6 図 バンドウイルカ・上顎骨①



第 7 図 バンドウイルカ・上顎骨②



第 8 図 バンドウイルカの椎骨  
1～3：腰椎 4～6：尾椎



第 9 図 ゴンドウクジラ類の椎骨  
1・2：腰椎 3・4：尾椎

7 図のものが 27cm です。椎骨は、腰椎と尾椎が各 3 点です。全てほぼ同じ大きさで、椎体長が 3.5cm から 4cm、椎体横径が 5cm です。また、椎頭の癒合が完了しているものは、腰・尾椎各 1 点 (1・4)、一部、癒合が始まっているものが腰椎 1 点 (2) です。その他の 3 点 (3・5・6) は未癒合の状態です。本種の成体の体長は、約 300cm とされています。また、沿岸から沖合いまで広く生息しています。

④ゴンドウクジラ類 (第 9 図)

ゴンドウクジラ類は、椎体が 4 点展示されています。本分類は、マイルカ科に含まれる小型のクジラの一群をさし、ゴンドウクジラ亜科の全 5 属とシャチ亜科の 2 属中 1 属が含まれます。大きさは、もっとも大きい 1 のもので、椎体長 9.7cm、椎体横径 8.0cm です。また、1 と 4 は、椎頭部分の癒合が完了しているのに対して、2 と 3 は未癒合の状態です。

まとめ

これらとともに、鹿角製の鉾が展示されています。これらは、イルカ・クジラ類を獲るのに用いられたものです。

本館に寄贈された吉田格コレクションのうち、動物遺存体の整理はまだ途中です。今後、整理が進むなかで、縄文時代の人々の生業活動の様子や食生活が読み解かれていくことが期待されます。

(学芸員 阿部常樹)

## NEWS ③

## 館務実習

平成 24 年度の博物館学芸員課程の館務実習を以下の日程で延 7 日行いました。実習生は、4 名で、その内訳は、文学部文学科 1 名、仏教学部仏教学科 1 名、地球環境科学部環境システム学科 2 名でした。

○ 8 月 4 日 (土)

・ 午前；文化史講義

(NPO 法人野外調査研究所 吉川國男先生)



吉川先生の講義の様子

・ 午後；刀剣の取扱

(文学部社会学科准教授 田嶋和久先生)

○ 8 月 5 日 (日)

資料の取扱 (拓本・裏打)

○ 8 月 6 日 (月)

資料の取扱 (梱包実習)

○ 8 月 7 日 (火)

資料の取扱 (写真撮影)

○ 8 月 8 日 (水) ~ 10 日 (金)

資料の取扱 (資料台帳作成)



梱包実習の様子

## 土器焼き

昨年度に引き続き、平成 24 年度の文学部史学科の「考古学実習 6」(4 年生対象)において、土器の焼成が熊谷キャンパスの敷地内で行なわれました。実施日は平成 24 年 9 月 22 日(土)・23 日(日)の 2 日間、担当講師は竹花宏之先生(文学部非常勤講師)、参加実習生は 15 名でした。



竹花先生の講義の様子 (考古学実習)

また、平成 24 年度は博物館実習(熊谷、学部 4 年生対象)においても同様の授業が熊谷キャンパスで行なわれました。こちらでは、土版の製作がおこなわれました。実施日は、平成 24 年 5 月 14 日(月)、担当講師は久保田正寿先生(文学部非常勤講師)、参加実習生は 7 名でした。



土版の焼成後の状況 (博物館実習)

## 見学者の声

当館では、来館者の皆様の意見を博物館の運営や展示に反映する為メッセージ箱を備えております。なお、下記のご意見は寄せられたもののなかから事務局で集約したものです。貴重なお意見ありがとうございました。

- ・実際の遺物を見ることができてよかった。特に鐘の音のキレイさに感動した。体験できるというのはいいと思う。(本学学生・21歳 女性)
- ・私が住んでいる市内(群馬県桐生市)のものを立正大学が発掘していたことに、とても驚きました。同時に、自分が住んでいるところの歴史について、もっと詳しく知りたいと思いました。(本学学生・21歳 女性)
- ・教科書でしか見られないような土器や石器がたくさんあって、見ていて楽しかったです。やはり、教科書で見たり話で聞いたりするより雰囲気味が

わえて、来てよかったと思いました。

(県外・高校生・15歳 女性)

- ・立正大学に初めて訪れたけれども、まず、博物館があることに、とてもおどろきました。埼玉県で発見された土器・石器がとてもたくさんあり、立正大学では、それが保存されていて、すばらしいと思いました。(県内・高校生・15歳 女性)
- ・資料の名称で読めないものがいくつかあり、全ての資料にルビをふってほしいです。

(県外・一般・27歳 男性)

- ・もう少し資料の間を空けてほしいと思いました。(本学学生・21歳 男性)
- ・展示品がたくさんあり、見ていて楽しかったです。大学の博物館とは思えないものもあり、驚きました。ただ、ケース内に影ができて、それが展示品に影を落としたり、展示品の説明が不十分だと思いました。(本学学生・21歳 男性)

## 利用案内

所在地：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700  
立正大学熊谷キャンパス内  
TEL 048 - 536 - 6150  
FAX 048 - 536 - 6170

開館日：月・水・木・金・土曜日(大学休業中を除く)  
開館時間：10:00～16:00

※休館日(火・日・祝日)及び大学休業中(夏・冬・春期休暇等)に見学を希望される方は、事前

に博物館あるいは総務部総務課(048-536-6010)にご連絡下さい。

交通機関：①JR高崎線、上越・長野線幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。南口より立正大学行バス(国際十王交通)で約10分。

②東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス(国際十王交通)で約12分。

## あ と が き

今年度4月より学芸員として博物館業務に携わり、早、6ヶ月が過ぎました。まだ不慣れなことが多く、皆様にはご迷惑をお掛けすることが多いと思われませんが、博物館がよりよいものとなるように誠心誠意頑張っていきたいと思っております。

今後とも、当館へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

(阿部)

立正大学博物館館報 万吉だより 第17号

平成25(2013)年9月30日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048 - 536 - 6150

FAX 048 - 536 - 6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <http://www.ris.ac.jp/museum/index>